

みずみどり

2024年12月1日 第165号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

連絡先 坂本 郁子 桐蔭区中台2-27-E505

雑草を見直す



チカラシバの花穂

実りの秋、私たちには、お米、柿、クリ、ブドウなどの恵みに感謝ですね。野外ではドングリだけでなく、様々な木が実や種をつけ、生き物たちに恵みをもたらしています。

バッタ広場は、ありふれた雑草が育ち、ありふれた虫たちが集まる空間として維持しています。今年のどんぐりまつりでは、「雑草の種」をテーマに考えました。

「雑草の種」なら「くつつき虫」ですね。

くつつき虫は、バッタ広場の作業で、軍手も種だらけになり、衣服に刺さると服の中に入り込んで、チクチクする厄介者です。動物や人にくっついて運んでもらう「動物散布型」種子。だから

この手の植物は種は落下しないで枝についたまま、誰かくつつく相手が来るのを待っています。どんぐりまつりのテーマは「くつつき虫」と意気込んで、9月23日、準備のために集まったバツタ広場では、雑草の花が咲き始めたところでした。よく見るときれいな雑草の花に虫たちが集まっていました。そこで雑草観察会をしました。

9月29日、雑草観察会をしました

今年あちこちに増えたヒメジソ？、触ったり踏みつけられてシソ科のよい香りが漂います。小さな紫色の花に小さな虫たちが蜜を求めて集まります。シジミチョウ、イチモンジセセリ、ミツバチ、他にもいろいろ。ますます増えた黄色のキンミズヒキの花、最近増えたヒメツルアズキの黄色い花、イヌタデ、ミズヒキの赤い花、ヌスビトハギの淡いピンク、ウシハコベ、きれいなブルーのツユクサ。一面に生えたチカラシバの花も壮観、中にシロオビノメイガ、似たような小さな蛾（裏側に止まるので確認できない）がいっぱい。チカラシバに混じったセイタカアワダチソウ、コセンダングサの黄色い花。通常は草刈りされる運命の雑草もここでは花が咲いて、それぞれかわいらしい。コムスジ、アカボシゴマダラ、キタテハなどのチョウ、今年はオオカマキリも多く、雑草のお花畑は平和な空間でした。

イノコズチ

イノコズチ（写真左）は道端や木の下などに生えている、全然注目されない雑草です。写真は花の状態か、種なのか、調べていませんが、いつからか種になり、これがやっかいなくつつき虫。

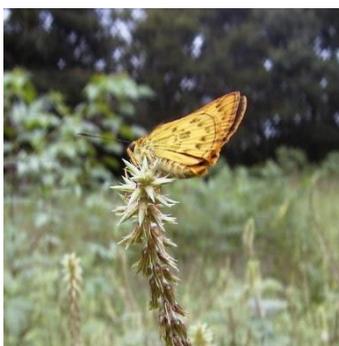


秋から冬のバツタ広場の手入れでは、矢じり状の種が衣服の中に侵入して痛いし、取るの苦労します。このイノコズチには蜜があるらしいのです。昆虫の写真を撮るときは、虫のことばかり考えていて、何の花にいるのか注意しなかったのですが、以前コアオハナムグリ（写真右）が3匹イノコズチに止まって



いて、この雑草然としたひものような花に蜜があるらしいとは思っていませんでした。やはり、

この日もツチバチが来ていました。イノコズチの蜜を吸っているチョウチョの写真もあります。これまで眼中になかったイノコズチが昆虫に蜜を提供していること(受粉してもらっていること)、自然の中でさまざまな生き物と関わり、役割を果たしていることにちょっと感動しました。



「とんぐりまつり」で展示した 雑草の花?種?

10月12日に開催されるとんぐりまつりで雑草の種を展示しようと考えましたが、種ができるのはもっと先でした。

先に紹介したイノコズチ、エノコログサ、表紙のチカラシバナなどは、花だか種だか、その中間なのか、わかりません。

まあ、どっちでもいいから、バッタ広場の雑草を集めて器に盛って



て展示しました。写真を撮っていた人もいた! でも子供たちは、ありふれた雑草を見たり手で触ることはほとんどなく、ついでに置いておいた顕微鏡で見る植物の花?種?観察が中心でした。確かに実体顕微鏡で見る世界は、人の手では絶対作り出せない植物の複雑で、神秘的なつくりを見せてくれます。でも子供たちに普通に自然を見せるのはむずかしい。

追記: 10月末まで、「植物の知恵(種のいろいろ)」というテーマで、サービスセンターで展示しました。

「どんぐりまつり」 「自然の宝物をさがす観察会」

水と緑の会では、毎年どんぐりまつりの会場近くの徳丸緑地地区で「自然の宝物を探す観察会」を実施しています。今年も午前、午後の2回、それぞれ数組の親子が参加されました。イベントは、公園として整備された平坦地（公園になる前は田んぼだったところ）で開催されます。ここには、遊具があり、噴水があり、子供達でにぎわうところです。観察会は公園らしくない崖下や山を歩きます。「行ったことがない」参加者がほとんどで、子供達にはちょっとした冒険です。私は、お父さんやお母さん達に、この場所の地形や植生の違い、崖や湧き水の話をしめます。子供たちも一緒に聞き、親からまた説明してもらって「ふーん」と納得?! 私が最初に見せる木は、何の変哲もない崖下のイヌシデの木。種がぶら下がっていて、この小さな種の一片を見せると「木に種があるんだ!」と驚かれます。落ちていたシイの実を「食べられますよ」というと割って中の白い実を食べたパパは「これはナッツだ!」と叫びました。今年は木の枝についているトチの実を見てから、地面に落ちている実を拾って割ると、あっ種だ! 観察会では葉っぱのにおいを嗅いだり、ブドウの房のようなトウネズミモチの実を見たり等々楽しい。私たちも身近に自然体験ができる場所として、大事にしていきたいと思っています。

(坂本 郁子)

光が丘公園で観察会



11月17日、5名で光が丘公園に行きました。成増駅から、ずずむき川（白子川の支流）の蓋掛けされた川の跡（暗渠）を歩いて公園の北口までたどり着きました。参加者それぞれが注目した光が丘公園の自然を紹介します。

光が丘公園の素晴らしさ!

広大な敷地の中に運動場・広場・図書館など様々な施設があります。が、何ととっても素晴らしいのが雑木林! 区民も協力して植えた木々が立派に成長し、気持ちの良い雑木林になっています。

公園の一角にある『昆虫原っぱ』は、別名『練馬区で一番大きな原っぱ』。人が手入れをすることで、昆虫が暮らしやすい原っぱになっています。今の時期、昆虫は少ないですが、入口のクロガネモチの木に赤い実が沢山なっていました。季節によりいろいろな姿が楽しめます（黒澤 早苗）

うつろう季節の野草たち

今年は例年より暖かい日が続いたせいか、野の花が長く楽しめています。

足もとにはツユクサが、秋空のように青く、丸い花びらと黄色い雄しべで蝶のような可愛らしく咲いています。

キツネノマゴはシソの花に似ていますが、より密に花が付き、太く短い穂になります。花びらは先が三つに割れた、チューリップの様な形で中心が濃く、周りが薄い赤紫色です。ちらほらと穂から横につきだすようにして咲いています。

オシロイバナも鮮やかな赤紫色の花を咲かせていて11月とは思えない色々な花を楽しめました。一方、タンポポの仲間はギザギザのロゼット型の葉を地面に付けるように広げ、冬支度を始めていました。

季節に合わせて植物たちも様々なペースで暮らしているのを感じることができました（鈴木）。



写真左：キツネノマゴ 右：ロゼット

フラタナスの実

光が丘公園雑木林の落ち葉の上に黄緑色と茶色の直径3センチ程の丸いプラタナスの実がたくさん落ちていました。コチコチに硬く割れません。

プラタナスの種は栗の実のようなものと思いましたが、綿毛の種子が集まった集合果だと知りました。固いのはまだ熟していないから？

拾った実をナイフで削ってみたら、タンポポのような種が出て（写真右）、子孫を残す。

またひとつ植物の不思議を感じた観察会でした（小林悦子）。



昆虫原っぱのクマシテ？

昆虫原っぱの朽木が積み重なった近くに樹形美しい木がある。ホップのような茶色の実が枝々に

垂れ下がっている。プックラしてちょっと長い。

木の下には、丸みのある花びらのようなものが数えきれないほど。葉の側脈を数えると24対。



地面に落ちていた実の長さは10cmをこえて、小さな葉っぱ（果苞というらしい）の基部には種が付いている。側脈の数

や果苞の形は、クマシデらしさがあるが、木の下

に落ちていた無数の少しふんわりした楕円形の丸いものは何？植物の同定って難しいです（雨宮 清子）。



ススキ原っぱ

一面のススキの原っぱ、ススキの穂が秋の日差しの中で輝いていました。人の手が入ることによって維持されてきた茅原を保全するため、武蔵野茅原組合をつくって活動されています。雨宮さんは子供の頃、村総出でススキを刈り、屋根を葺くのに利用されたそうです。

柵の中は立ち入り禁止、柵の外側はバッファゾーン、芝生より自然な草地で、中に入って生き物を観察できます。この日、イナゴ、オンブバッタ（親子でなくオスとメス）、シジミチョウがいました。

水と緑の会も、草地（バッタ広場）を管理しています。草地の環境が違くと植生もまったく違います。赤塚バッタ広場は、周囲の樹林地の影響を受け、実生木とアズマ

ネザサが優占しています。光が丘のススキ原っぱはススキが主で、手入れが楽そうに見えますが、広大なのでやっぱり大変そうです（坂本 郁子）。

光が丘公園のススキ原っぱ・昆虫原っぱ (4月17日 布施今朝一撮影)



右上は草原の生き物情報の掲示。下段は刈った草木を搬出せず、堆肥場、朽木積みとして、コオロギやカブトムシ、クワガタ、カミキリムシが生息する場となっています。

活動・観察記録(9月23日~11月)

トンボ池 ザリガニ捕獲(10月24日から11月23日で485匹、トラップには母ザリガニのお腹から離れらたばかりの稚ザリガニも)。ザリガニは年中繁殖し、きりなく生まれてくるので、ちょっと絶望的になりそう。ザリガニの死骸に、一時期シテムシやハネカクシが集まっていたが、寒くなっていなくなり、エサに気付いた野鳥?があつという間に片付けてしまいます。クビキリギス、ジョロウグモ(11月中まで)、オオウンモンクチバ、イトトンボ、オオスズメバチ、アキアカネ、クロコノマチョウ、ホシホウジャク、キツタの花にハナバチ、ハエ、池の渋柿にメジロ。甘くなった柿を食べにいろいろな野鳥が来ているのでしょう。

バッタ広場 ゴマダラチョウ、アカボシゴマダラ、ウラナミシジミ、キチョウ、コムスジ、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、キタテハ、イチモンジセセリ、アオスジアゲハ幼、オオウンモンクチバ、シロオビノメイガ、ツチイナゴ、ホシササキリ?、オオカマキリ、オオカマキリ卵、ヒメナガメ、赤とんぼ、アオクサカメムシ幼

情報 城址のオオタカの巣(カラスの古巣を利用した)からヒナが一羽巣立ったそうです。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）どなたでも

生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業をやります（カマは用意します）。

12月8日（日）10:00～11:00

1月12日（日）10:00～11:00

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープの手入れ（第4土曜日）

12月28日（土）10:00～11:00

トンボ池の枯れ草・ササを刈って春の準備をします。

1月25日（土）10:00～11:00

バッタ広場のササ、枯草を刈って春植物の出現に備えます。

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前 汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

3 日暮台公園と樹林地の観察（第1日曜日） 10時日暮台公園前集合

4 浮間公園の水鳥と荒川河川敷をちょっと観察（どなたでも）

1月19日（日）10:00～11:30

集合場所：浮間公園観察デッキ（浮間舟渡駅側の入り口から入って右側の観察デッキ）

持ってくるもの：温かい服装で、あれば双眼鏡

問い合わせは、坂本まで090-4618-1295

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。